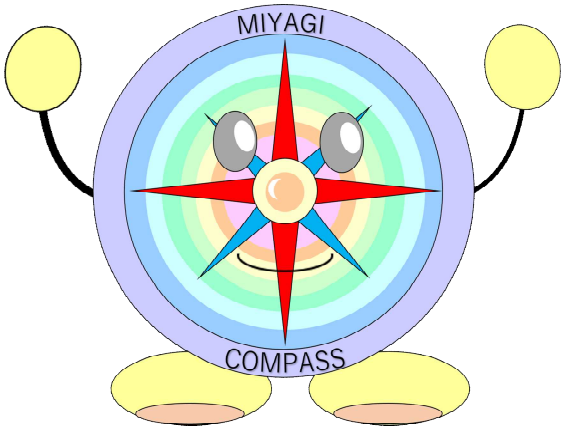
第３章

ぎんみしよう！

明日からの授業

（資料編）



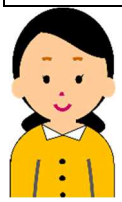
１　学習指導案をつくってみよう

学習指導案をつくろうと思うのですが，特別支援学校，特別支援学級の学習指導案の特徴について知りたいので，教えてください。

特別支援学校，特別支援学級の学習指導案は，一人一人の児童生徒の実態から始まり，一人一人の児童生徒の個別目標や支援が，具体的に分かりやすく記載されます。また，Ｔ・Ｔの連携の方法なども示されますよ。

○　小・中学校等との学習指導案の違い

	特別支援学校，特別支援学級の学習指導案	小・中学校の通常の学級の学習指導案
児童生徒への働き掛け	・　児童生徒全体だけでなく，**一人一人の児童生徒**への指導や支援も記入する。 ・　**一人一人の児童生徒**の個別の目標の達成に近づくための，必要な指導や支援を記述する。	・　主に児童生徒全体への指導や支援を記入する。 ・　習熟状況に合わせ，その段階ごとの児童生徒の学習を促進させる手立てを記入する。 ・　評価規準の項目に，努力を要する状況(C)の児童生徒への手立てを記述することがある。
単元（題材）について	・　始めに「**児童生徒観**」から書き始める。 **①　児童生徒観** ②　単元（題材）観 ③　指導観 ・　「個別の指導計画」に留意しながら，**児童生徒観→単元（題材）観→指導観**の順に書く（「○○な児童生徒だから，△△な内容を，□□のような指導や支援で」と書くと指導が具体化される）。	・　始めに「**単元（題材）観**」から書き始める。 **①　単元（題材）観** ②　児童生徒観 ③　指導観 ・　学年（生活年齢）に応じた指導計画に基づく授業を行うので，単元（題材）観から書き始める。
目標・評価	・　児童生徒の集団全体だけでなく，**一人一人の児童生徒**の目標･評価も細かく記述する。 ・　ただし，**自立活動**においては，三つの柱から整理されていないため，個別の指導計画に基づき，**６区分27項目**との関連を押さえて記述する。	・　主に児童生徒の集団全体の目標･評価を記述する。



特別支援学校，特別支援学級では，学習指導案の形式や盛り込む内容などに細かな工夫や配慮が示してあるので，分かりやすいですね。

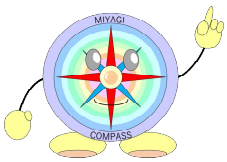
学習指導案には，略案と細案がありますよね。その違いについて詳しく教えてください。

略案は，授業の大まかな流れを押さえる設計図です。
細案は，授業全体が構造化されている緻密な設計図です。
学習指導案の略案・細案共に，基本的には決まった様式はありません。ただし，各市町村や各学校などで様式が決められていたり，初任者研修等で示されたりする場合があるので，参考にしてみるとよいですよ。

〇学習指導案の形式の違い

	特　徴	活用場面（例）
略案	・　細案の「本時の計画」の項目（本時のねらい，本時の指導過程など）のみ明記している。 ・　ＴＩ（授業を中心に考える教師）が基本的に作成し，Ｔ・Ｔ間で授業の共通理解を図ることができる。 ・　Ａ４版１枚程度でまとめることが多い。	・　本時の授業の構成を考えるとき。 ・　本時の指導記録を累積するとき。 ・　本時の授業改善等に役立てるとき。 ・　授業研究会などで，授業者の意図を分かりやすく示すとき。 ・　参観日等で，保護者に授業を見てもらうとき。
細案	・　単元（題材）名，単元（題材）設定の理由，単元（題材）の目標，単元（題材）の指導計画，評価規準，本時の指導など，一単元全ての項目について，詳細に明記している。	・　児童生徒や単元（題材），授業の捉え方，考え方をまとめ，授業研究会等で授業を提供するとき。 ・　単元（題材）全体の授業改善等に役立てるとき。 ・　校内研究や研修会，学校訪問指導などで関係者から授業に対する助言を得るとき。

略案づくりのポイントは，児童生徒の実態を的確に把握し，授業のねらいを明確にすることです。「できるようになって欲しいことは？」「どうすれば，みんなで楽しく活動できるかな？」というような，児童生徒への思いやアイデアを形にしましょう。
細案を書くと，目の前にいる児童生徒のことをじっくり丁寧に考えながら授業づくりをすることができるので，児童生徒のより良い成長と教員の専門性向上が期待できます。



日々の授業づくりと同様に学習指導案づくりでも，児童生徒の実態を踏まえることが，大切なポイントなのですね。

学習指導案づくりを始めるに当たって，参考にできる資料等は何かありませんか？

学習指導案の項目に沿って，学習指導案づくりで必要な視点をまとめた**「学習指導案づくりの２０の視点」**（p. 3-4）がありますよ。

学習指導案を作成していて，確認したいことや自信のない部分が出てきたときに，必要なところを活用してみてください。また，学習指導案をより良くしたいときの視点としても活用できますよ。

「学習指導案づくりの２０の視点」（p. 3-4）があれば，各視点をチェックしながら，学習指導案づくりができますね。慣れるまでは，いつでも見られるように，手元に置いておこうと思います。

他には，

学習指導案例（教科別の指導「算数科」）→p. 3-5～p. 3-10

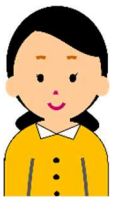
学習指導案例（各教科等を合わせた指導「生活単元学習」）→p. 3-11～p. 3-18

学習指導案様式例（教科別の指導）【解説ナビ】→p. 3-19～p. 3-21

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】→p. 3-22～p. 3-24

があるので，参考にしてみてください。

ただし，これらの例に，授業づくりのＳｔｅｐを全て盛り込んではいません。Ｓｔｅｐで授業づくりをしますが，そこから必要なことを学習指導案に表していきましょう。



学習指導案様式例【解説ナビ】を参考に学習指導案をつくってみようと思います。学習指導案様式例は，どこでダウンロードできますか？

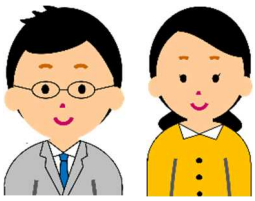
学習指導案様式例（教科別の指導）

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）

は，宮城県総合教育センターのホームページからダウンロードできますよ。

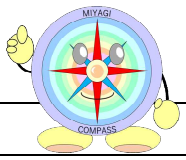
宮城県総合教育センター

http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/



ありがとうございました。
早速，学習指導案づくりを頑張ってみたいと思います。

学習指導案づくりの２０の視点



学習指導案の項目	視点の内容
単元（題材）名	**視点①**　活動がイメージしやすく，主体的に取り組みたくなる表現である。
単元（題材）設定の理由	
・児童（生徒）観	**視点②**　個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。 **視点③**　単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心，発達段階，生活経験を分かりやすく書いている。
・単元（題材）観	**視点④**　単元（題材）を通して，児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。 **視点⑤**　学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。
・指導観	**視点⑥**　児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。 例：単元構成の工夫，教材・教具の工夫，学習形態の工夫，評価方法の工夫
単元（題材）の目標 単元（題材）の個別の目標	**視点⑦**　「育成を目指す資質・能力」が明確である。
単元（題材）の評価規準 単元（題材）の個別の評価規準	**視点⑧**　「育成を目指す資質・能力」に対する到達状況が具体的である。
単元（題材）の指導と評価の計画・評価方法	**視点⑨**　単元（題材）の目標を達成するための，評価の計画が明確に位置付けられている。 **視点⑩**　扱う教科の内容が明確に示されている。（主に各教科等を合わせた指導の場合）
本時の指導	
・本時の目標	**視点⑪**　「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。
・本時の指導に当たって	（**視点⑥**　児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。）
・本時における個別の実態と目標及び評価規準	**視点⑫**　個別の実態は，できること・できそうなことに注目し，本時の指導につながる観点で具体的である。 **視点⑬**　個別の目標は，どのような力を身に付けさせたいかが具体的である。 **視点⑭**　個別の目標を達成するための手立てが具体的である。
・指導過程	**視点⑮**　教師の動きやT・T間の役割が明確である。 **視点⑯**　授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である。 **視点⑰**　「育成を目指す資質・能力」が身に付くために，「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導や支援を考えている。
・本時の評価	**視点⑱**　「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。
・準備物	**視点⑲**　教材・教具の工夫や使い方が具体的である。
・場の設定	**視点⑳**　図や写真を用いて，イメージしやすいように示されている。

※学習指導案の様式に合わせて，必要に応じてご活用ください。

学習指導案例（教科別の指導）

知的障害学級　１年１組　算数科　学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇
場　所　〇〇学級教室
指導者　〇〇　〇〇

１　単元名「かぞえめいじんになろう」（さんすう☆☆(1)　文部科学省）

２　単元設定の理由

(1) 児童の実態［１年１組・３名］

本学級は，１年生の３名で構成されている。集中できる時間は限られているが，興味のある学習には基本的に座って参加できる。A児はダウン症で，発語があり，友達と関わることが好きである。B児は，明確な発語はないが，担任の二語文程度の簡単な指示は理解できている。C児は，主たる障害が知的障害でＡＳＤも有しており，少々多動な面が見られる。

算数科に関する実態としては，A児とB児は，具体物を３まで数えられるが，集合数の理解が難しい。また，感覚的に「多少（大小）」の判別ができるが，数の比較は難しい（２段階）。C児は，具体物を20までであれば，ものの数を数え間違えずに手際よく数えたり比べたりできる（３段階）。

(2) 単元観

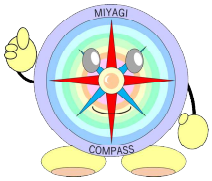
本単元は，学習指導要領「A数と計算」の，以下の目標・内容を受けて設定している。

A数と計算　２段階　目標
ア　10 までの数の概念や表し方について分かり，数についての感覚をもつとともに，ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。

A数と計算　２段階　内容
ア　10 までの数の数え方や表し方，構成に関わる数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるように指導する。
〔知識及び技能〕
(ア)㋐ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。
〔思考力，判断力，表現力等〕
(イ)㋐数詞と数字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

本単元では，10 までの数の数え方や表し方などについて学習する。児童はこれまで，５までの一対一対応の簡単な学習を行ってきた。これらの学習が，音などの見えないものを数えたり，縄跳びを跳ぶ回数（動き）を数えたりする学習につながっていく。

これらを受け，本単元では，10 までの数を数える活動を通して，身の回りのものを数えたり操作したりする等，日常生活で活用しようとする態度を育てることができる単元である。



学習指導案づくりの２０の視点

①活動がイメージしやすく，主体的に取り組みたくなる表現である。
②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。
③単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心，発達段階，生活経験を分かりやすく書いている。
④単元（題材）を通して，児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。
⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

(3) 指導観

指導に当たっては，実際の生活場面に即した課題として，学級での当番活動である給食の牛乳を配る場面を想定した。導入場面では，単元のゴールを最初に示し，主体的に学習に参加できるようにする。また，単位時間ごとにゴールを確認し，目的意識を常に持たせるようにしたい。数を数える活動では，実物を用いて互いの数える様子を見たり，教師が媒介しながら一緒に確認したりするなど，児童同士の学び合いを促し，数唱や集合数の理解を深めたい。また，その日の頑張りやできたことを，「数え名人カード」にシールを貼って賞賛し，児童の自信や主体的に取り組む意欲を高めたい。最後の振り返りでは，学習した内容を発表することにより，自分の取組を想起し，それに伴う気持ちを表現する力を養うことで，数量への関心につなげたい。さらに，10 まで数えられるようになったことを家でもやってみようとするなど，日常生活に生かすことができるのではないかと考え，本単元を設定した。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

３　単元の目標

(1) ものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。
〔知識及び技能〕

(2) 数詞と数字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕

(3) ものの集まりや数詞に関心を持ち，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方のよさを感じながら，興味を持って学ぼうとする。
「学びに向かう力，人間性等」

⑦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

４　単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
牛乳やストローの集まり，それぞれの数詞と対応した数字が分かっている。 （Aア(ア)㋒）	牛乳とストローの関係において，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，学習や生活の場面に応じて考えている。 （Aア(イ)㋐）	牛乳やストローを数える活動において，ものの集まりや数詞に関心を持ち，生活や学習に活用しようとしている。

⑧「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

(2) 単元の指導計画（７時間扱い　本時１／７）

時	主たる学習活動	評価規準			評価方法
		知・技	思・判・表	主	
1 本時	・牛乳を数える（５まで） ・既習事項の振り返り（３まで）	・			行動観察
2	・牛乳とストローを数える（５まで）	・	・		行動観察 発表
3 4	・牛乳とストローを数える（５まで） ・牛乳にストローを組にして置く	○	○		行動観察 発表
5 6	・牛乳とストローを数える（10 まで） ・牛乳にストローを組にして置く	○		・	行動観察 発表

⑨単元（題材）の目標を達成するための，評価の計画が明確に位置付けられている。

7	・実際の給食準備の場面を利用して，牛乳にストローを組にして置く	・	○	○	行動観察 発表

※　○：記録に残す評価　・：指導に生かす評価

５　単元の個別の目標

	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
A児	５までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	５までの数詞と数字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	５までのものの集まりや数詞に関心を持ち，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方のよさを感じながら，興味を持って学ぼうとする。
B児	５までのものの集まりや数詞と対応した数字の意味が理解できる。	５まで数詞と数字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味を持って生かすことができる。	５までのものの集まりや数詞に関心を持ち，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方のよさを感じながら，興味を持って学ぼうとする。
C児	数える対象を５ずつのまとまりで数えることができる。	５ずつの数のまとまりに着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，学習や生活で生かすことができる。	５ずつの数のまとまりに関心を持ち，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方の良さを感じながら，興味を持って学ぼうとする。

６　本時の計画

(1)　本時の目標

・５までのものの集まりと数詞を対応して数えることができる。

〔知識及び技能〕

(2)　本時の指導に当たって

本時の指導に当たっては，以下の点を工夫しながら進めていく。

・実際の生活場面に即した課題の提示
・導入での既習事項の確認
・具体物を使用した学習活動
・ＩＣＴの活用（学習課題の拡大提示，振り返りの映像）

⑪「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

(3) 児童の実態と個別の目標及び評価規準

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A児	・一対一対応を覚え始め，３までの数であれば，正しく数えることができる。	・５個までの牛乳を数唱しながら数えることができる。	・教師と一緒に，指さしをしながら数えることを繰り返す。	・一対一対応をしながら，５個までの牛乳を数えている。
B児	・３までのマッチングはできているが，それ以上を数えることは難しい。 ・友達と関わることより教師との関わりを好む。	・教師が数える言葉に合わせて，指さししながら５個までの牛乳を数えることができる。	・牛乳をかごに入れる（数える）ときは，一人で行うよう促す。 ・かごに入った牛乳を数えるときは，教師と一緒に指さしをして行う。	・４と５を数えるときも，指がずれずに数えている。
C児	・20までのものの数を正しく数えることができる。 ・具体物が変わっても，正確に数えることができる。	・10を５と５のまとまりとして捉えることができる。	・５のまとまりに気付かせるために，かごに入った牛乳を５個ずつに分け，並列に並べるようにする。 ・解決する場面で，最初に行わせ，復習や個別の課題に取り組むことができるようにする。	・５のまとまりを作り，数詞と対応している。

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問　　・指示 ◆予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
導入 10分	１　始めの挨拶をする。 ２　本単元の学習内容を知る。 ・動画を見ます。 ◆静かに見ている。 ◆早くやりたくてウズウズしている。	日直に注目するよう促す。 今まで給食の手伝いをしてくれた６年生からのメッセージ動画を使用し，本単元の課題を提示する。 Ａ児の学習に取り組みたい気持ちに共感し，意欲を高める。	

⑫個別の実態は，できること・できそうなことに注目し，本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は，どのような力を身に付けさせたいかが具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

⑮教師の動きやT・T間の役割が明確である。

	３　既習事項を振り返る。 ・３までのものを数えます。 ◆指さしに合わせて数を数える。 ◆Ｂ児は，発語はないが，指さしをして数える。 ４　本時のめあてを知る。 ぎゅうにゅうをかぞえよう。 ・今日のめあてを読みます。 ◆みんなで一緒に声を出して読む。	みんなが注目できるように，課題を拡大提示する。 指さしをする児童（Ｂ児）と数唱をする児童（Ａ児とＣ児）で協力しながら数えることで，児童同士の学び合いを促す。 クラスの人数である５人分を配る課題を提示する（児童３人，担任，支援員分）。 みんなの声に合わせて指さしするようＢ児を支援する。		⑯授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である。
展開 20分	５　牛乳を数える。 ・４個の牛乳を数えます。 ①４の数を知る。 ②指さしで数える。 ③４個の牛乳をトレイに置く ◆Ｃ児のまねをして，数えることができる。 ・５個の牛乳を数えます。 ①５の数を知る。 ②指さしで数える。 ③５個の牛乳をトレイに置く ◆指さしがずれる。	最初に，Ｃ児にやって見せるよう促す。 牛乳が置きやすいようトレイに線と 10 までの数字を書いておく。その際，２列に分けて線を引き，５のまとまりが意識できるようにする。また，提示する以外の数字は隠しておく。 Ｃ児には，かごに入っている牛乳を 10 個数えさせる。そして，トレイ２枚にそれぞれ５個ずつ置くよう促す。その後，牛乳を数えながら机の上に取り出させ，数える練習をさせる。Ｃ児が終了後，他の児童に数える練習をさせる。 指さしがずれた場合は，教師と一緒に確認をする。 活動の様子をタブレット端末で撮影し，振り返りで活用できるようにする。	・５個の牛乳を数え，ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。〔知・技〕	⑰「育成を目指す資質・能力」が身に付くために，「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導や支援を考えている。
終結	６　本時の学習を振り返る。 ・風船の数を数えます。 ◆牛乳と同じように風船を数える。	みんなが注目できるように，課題を拡大提示する。 「数え名人カード」にシールを貼って賞賛する。		

10分	7　今日の頑張りを共有する。 ○自分や友達の頑張ったことやできたことを発表しよう。 ◆映像を見ながら，友達の頑張りを賞賛する。 8　次時の学習を知る。 ○次回は，牛乳とストローを数えます。 9　終わりの挨拶をする。	ＩＣＴを活用して，友達の頑張りを互いに見合う。 自分から話せそうにない場合は，教師のインタビュー形式で児童の思いを引き出す。 Ｂ児へは，絵カードを用いて，自分の思いを発表できるよう支援する。 牛乳とストローの実物を見せながら説明をする。 日直に注目するよう促す。 （給食時の牛乳を数える様子を動画に記録し，次時の導入で生かすようにする。）	

⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

(5)　本時の評価規準

・５個の牛乳を数え，ものの集まりと数詞が対応していることが分かっている。（知識・技能）

⑱「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

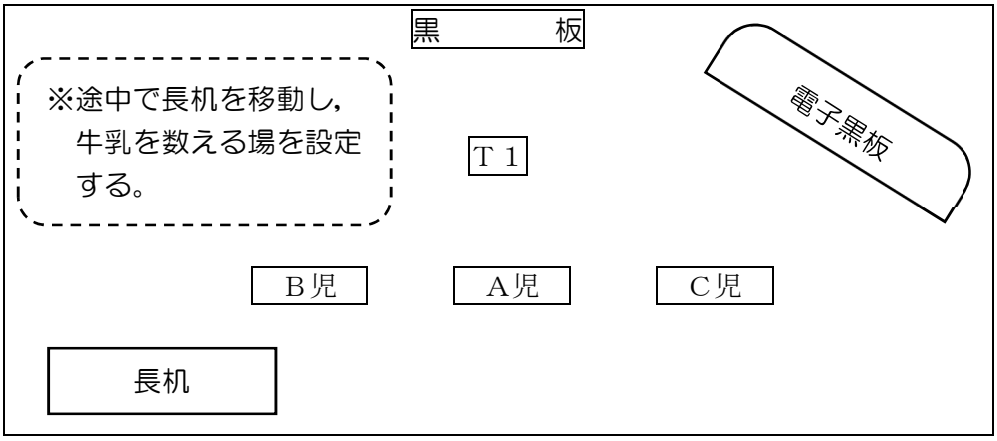
(6)　準備物

・教師：牛乳（空），ストロー，トレイ，数字カード，シール，電子黒板，タブレット端末

・児童：給食着，数え名人カード，絵カード

⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

(7)　場の設定

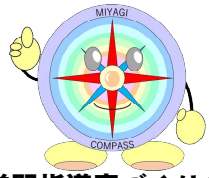


⑳図や写真を用いて，イメージしやすいように示されている。

学習指導案例（各教科等を合わせた指導）

小学部　４年１組　生活単元学習　学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日〇：〇〇～〇：〇〇
場　所　小学部４年１組　教室
指導者　〇〇　〇〇（Ｔ１）
　　〇〇　〇〇（Ｔ２）



学習指導案づくりの２０の視点

１　単元名「目指せ！お買い物達人！」

①活動がイメージしやすく，主体的に取り組みたくなる表現である。

２　単元設定の理由

(1) 児童の実態［４年１組・４名］

本学級は，４年生の４名で構成されている。３名がＡＳＤを有しており，日常的なことをいろいろと話せる児童がいる一方，自発的な発語の少ない児童もおり，コミュニケーションや認知等の発達の状況は多様である。

金銭に関する実態としては，ほとんどの児童が，同種類の硬貨であれば指定された金額を用意することができる。しかし，指定された金額を種類の異なる硬貨を組み合わせて用意することや，提示された金額の硬貨の組み合わせを複数用意することなどが課題である。

児童はこれまでの学習の中で，近くのコンビニエンスストアで好きなジュースやお菓子を買う経験をしてきた。買い物をする活動には，大変意欲的に取り組むことができ，お金を大切に扱う態度も身に付いてきている。家庭で買い物をする際の様子を保護者に聞いてみると，スーパーマーケットでの買い物については，一人でレジに並んで店員とやり取りをしながら支払いができる児童がいる一方，一人での買い物は難しいが，保護者が付き添えばかいものができる児童もいるため，児童がスーパーマーケットでの買い物に自信を持って取り組めるよう，経験を積み重ねる必要がある。

②個別の指導計画とこれまでの学習状況を基に考えている。

③単元（題材）に対する児童生徒の興味・関心，発達段階，生活経験を分かりやすく書いている。

(2) 単元観

本単元は，児童にとって身近な活動である買い物について学習するに当たり，特別支援学校小学部学習指導要領の生活，算数，国語の，以下の内容を受けて設定している。

④単元（題材）を通して，児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかに着目している。

⑤学習指導要領の「各教科の目標及び内容」を押さえている。

小学部　生活　２段階　内容

〔知識及び技能〕

キ　手伝い・仕事(ｲ)簡単な手伝いや仕事について知ること。

ク　金銭の扱い(ｲ)金銭の扱い方などを知ること。

〔思考力，判断力，表現力等〕

ク　金銭の扱い(ｱ)身近な生活の中で，教師に援助を求めながら買い物をし，金銭の大切さや必要性について気付くこと。

小学部　算数　２段階　内容

〔知識及び技能〕

Ａ　数と計算　ア(ｱ)㋐ものとものとを対応させることによって，ものの個数を比べ，同等・多少が分かること。

〔思考力，判断力，表現力等〕
A 数と計算 ア(ｲ)㋐数詞と数字，ものとの関係に着目し，数の数え方や数の大きさの比べ方，表し方について考え，それらを学習や生活で興味を持って生かすこと。

小学部　国語　２段階　内容

〔知識及び技能〕
ア 言葉の特徴や使い方(ｲ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。
〔思考力，判断力，表現力等〕
A 聞くこと・話すこと イ　簡単な指示や説明を聞き，その指示等に応じた行動をすること。

買い物をするためには，商品名を読んだり，店員とのやり取りをしたりする必要がある（国語）。また，支払いの際には，お金の計算（算数）や金銭の扱い（生活）も大切になる。特に，家族に頼まれたものを買い物する（生活）ということへの，児童の興味・関心は高い。金銭を用いた買い物は，児童の将来の社会参加と自立的な生活を考えた上でも，重要度の高い活動であると考えられる。

そこで，本単元では，①金銭を扱うこと，②家族に頼まれたものを選んで購入すること，③店員とのやり取りの仕方などの学習を行うこと，を設定し，自分の力で買い物ができることを目指していきたい。

(3) 指導観

指導に当たって，「家族に頼まれたものを買い物に行く」という活動を取り入れることで，自分で買い物ができた達成感と自己有用感を味わえるようにしたい。児童全員が見通しを持ちながら活動に参加できるように，ＩＣＴ機器を活用し，写真を見たり手順をフラッシュカードで確認したりする。また，教師が見本となる行動を実際にやって見せることで，活動のイメージ化を図る。さらに，実際にスーパーマーケットへ行く前に，教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買い物学習を体験させ，自信を持って買い物ができるようにしたい。そして，今後予定されている校外学習やお楽しみ会での買い物学習に生かしたい。これらの学習を通して，児童が様々な生活場面においても，自信を持って主体的に活動に取り組めるようになることを期待している。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

３　単元の目標

(1) 買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をすることができる。
〔知識及び技能〕

(2) 店員と買い物に必要なやり取りをすることができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕

(3) 買い物を通して，人と関わることのよさに気付き，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。
「学びに向かう力，人間性等」

⑦「育成を目指す資質・能力」が明確である。

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をしている。	店員と買い物に必要なやり取りをしている。	手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとしている。

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（生活）金銭の扱い方などを理解している。 （算数）複数の硬貨を組み合わせて，金額を用意している。 （国語）平仮名で書かれている商品名を読んでいる。	（生活）金銭の大切さや必要性について気付いている。 （国語）簡単な指示や説明を聞き，その指示等に応じた行動をしている。	（生活）教師に支援を求めながら買い物をしようとしている。 （算数）金銭の価値に親しみ，買い物で必要な金銭処理をしようとしている。

⑧「育成を目指す資質・能力」に対する到達点が具体的である。

５　単元の指導計画（10 時間扱い　本時４／10）

次	小単元名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1	お買い物の計画を立てよう！	3	・買い物の目的を知る。 ・買い物に必要な学習を行う。	生活　キ手伝い・仕事 生活　ク金銭の扱い 算数　A数と計算
2	教室スーパーでお買い物 チャレンジ！	4 (本時4/4)	・仮想のお店で，店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行う。	生活　キ手伝い・仕事 生活　ク金銭の扱い 国語　A聞くこと・話すこと 国語　ア言葉の特徴や使い方 算数　A数と計算
3	レッツお買い物！	2	・実際のスーパーマーケットに行って買い物をする。	生活　キ手伝い・仕事 生活　ク金銭の扱い 国語　A聞くこと・話すこと 算数　A数と計算
4	お買い物達人になるために！	1	・前時の買い物学習を振り返る。	生活　ク金銭の扱い 国語　A聞くこと・話すこと

⑩扱う教科の内容が明確に示されている。

６　単元の個別の目標

	単元の個別の目標	扱う教科の実態
D児	買い物の流れが分かり，レジで店員とやり取りをしながら，自分一人で買い物をすることができる。	生活　３段階　ク　金銭の扱い 国語　２段階　A　聞くこと・話すこと 国語　２段階　ア　言葉の特徴や使い方 算数　３段階　A　数と計算
E児	買い物の流れが分かり，レジで店員とやり取りをしながら，少ない支援で買い物をすることができる。	生活　３段階　ク　金銭の扱い 国語　２段階　A　聞くこと・話すこと 国語　２段階　ア　言葉の特徴や使い方 算数　２段階　A　数と計算

⑩扱う教科の内容が明確に示されている。

F児	買い物に必要な店員とのやり取りを覚え，教師と一緒に買い物をすることができる。	生活　２段階　ク　金銭の扱い 国語　２段階　A 聞くこと・話すこと 国語　２段階　ア 言葉の特徴や使い方 算数　２段階　A 数と計算
G児	買い物の見通しを持ち，教師の支援を受け入れながら，教師と一緒に買い物をすることができる。	生活　１段階　ク　金銭の扱い 国語　２段階　A 聞くこと・話すこと 国語　２段階　ア 言葉の特徴や使い方 算数　１段階　A 数と計算

７　本時の計画

(1)　小単元名「教室スーパーでお買い物チャレンジ！」

①活動がイメージしやすく，主体的に取り組みたくなる表現である。

(2)　本時の目標

・決められた品物を選び，必要な金額を用意して買い物をすることができる。〔知識及び技能〕

・店員役とお客役に分かれ，買い物のやり取りをすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕

⑪「単元（題材）の目標」から絞り込んだ内容になっている。

(3)　本時の指導に当たって

次時のスーパーマーケットへ買い物学習に行く前に，教室をスーパーマーケットに見立てて模擬買い物学習を繰り返し体験させることで，自信を持って買い物ができるようにしたい。

本時では，レジ打ちの際にタブレット端末のアプリケーションを活用する。このアプリケーションはレジ打ちの機能を実際のお金とお金の画像をマッチングしながら実行できるため，支払いの仕組みや金種の理解を促すとともに，実際の買い物場面を想起しやすく，買い物遊びそのものを楽しみやすい。

学習のまとめとして，店員役とお客役に分かれての模擬買い物学習を行い，値段を見て同じ金額を出す活動や児童同士で金額が合っているかを確かめ合う活動を取り入れていく。その際，実際の硬貨を用意して行うことで，金銭を大切に扱うことについても学習していく。

⑥児童生徒の学習上の特性を踏まえた指導の方針・手立てが分かる。

(4)児童の実態と個別の目標及び評価

	児童の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
D児	①慣れた店では，店員と言葉を交わしながらやり取りすることができるようになってきた。 ②買い物の手順が分かり，品物を買うことができる。	①レジで，店員役やお客役と言葉を交わしながらやり取りすることができる。 ②レジで，品物の値段に応じて支払いをすることができる。	①ペアで協力するよう声掛けをする。 ②不安な様子が見られたときは，写真の硬貨とマッチングするよう促す。	①自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りをしている。 ②ちょうどの額を一人で支払っている。

⑫個別の実態は，できること・できそうなことに注目し，本時の指導につながる観点で具体的である。

⑬個別の目標は，どのような力を身に付けさせたいかが具体的である。

⑭個別の目標を達成するための手立てが具体的である。

E児	①練習では落ち着いてできるが，本番になると緊張して手順を抜かしたり間違えたりすることがある。 ②金種の弁別はできるが，何百円単位のお金を読むことが難しい。	①一つ一つの手順を丁寧に確認しながらやり取りすることができる。 ②レジで，品物の値段に応じた金額やおつりを用意することができる。	①手順表で次の行動を確認するよう促す。 ②実物の硬貨を１枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける。	①次の行動を確認しながら，丁寧にやり取りしている。 ②写真の硬貨と実物をマッチングさせながら正しく支払いの用意をしている。
F児	①品物を選ぶことはできるが，レジに並ぶことについては誘導が必要である。 ②身近な教師と簡単な日常会話をすることができる。	①品物を選んだ後に，自らレジに行くことができる。 ②レジで，店員役やお客役と身振りなどのやり取りをすることができる。	①手順表で次の行動を確認するよう促す。 ②緊張や不安を感じて活動が停滞した際には，適宜説明し直したり，落ち着くよう声を掛けたりする。	①次の行動を確認しながら，自分からレジに行っている。 ②品物やお金の受け渡しの場面で，相手に視線を向けながら行っている。
G児	①品物の近くまで行けば，品物に手を伸ばすことがある。 ②発語は少ないが，自分の要求を教師の手を取って伝えることができる。	①品物コーナーで，自分で品物を選ぶことができる。 ②教師と一緒に，レジでのやり取りをすることができる。	①選べないでいるときは，タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。 ②教師がそばにいるようにし，適宜教師のまねをするよう促す。	①品物コーナーで，品物をよく見て，自分から手を伸ばしている。 ②品物の受け渡しの場面で，教師のまねをし，相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりしている。

(5)　指導過程（別紙１）

(6)　本時の評価規準

・決められた品物を選び，必要な金額を用意して買い物をしている。
（知識・技能）

・店員とお客役に分かれ，買い物の手順に応じたやり取りをしている。
（思考・判断・表現）

⑱「本時の目標」に対する到達点を具体的に押さえている。

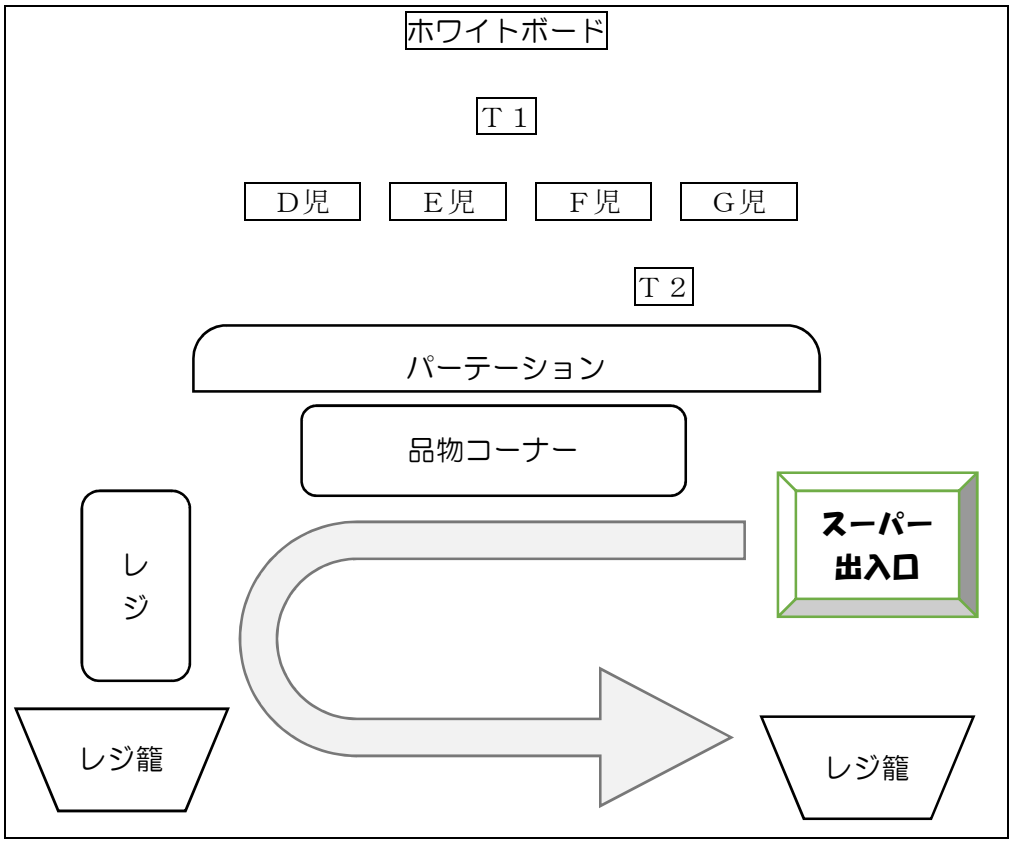
(7)　準備物

・教師：ＰＣ，プロジェクター，タブレット端末，学習カレンダー，学習計画表，顔写真カード，硬貨，品物，レジ籠，店員エプロン，レシート，バーコードリーダー，手順表，気持ちカード

・児童：財布，エコバッグ

⑲教材・教具の工夫や使い方が具体的である。

(8)　場の設定

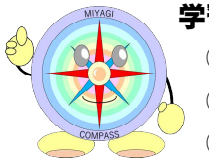


⑳図や写真を用いて，イメージしやすいように示されている。

(5) 指導過程（別紙１）　※関連する主な教科：生活　キ手伝い・仕事，ク金銭の扱い，国語　A聞くこと・話すこと，ア言葉の特徴や使い方，算数　A数と計算

段階	学習活動	指導上の留意点（・→児童の活動　○→教師の働き掛け　☆→評価）				準備物
		D児	E児	F児	G児	
導入 5分	1　始めのあいさつ	○日直はみんなを注目させるよう促す。 ・日直が挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	○日直に注目するように促す（T２）。 ・日直の合図に合わせて挨拶をする。	
	2　本時の学習を知る 「教室スーパーでお買い物チャレンジ！」	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる（T２）。	・活動の流れを確認する。 ○学習計画表に着目させる（T２）。	学習カレンダー 学習計画表
展開 30分	3　お買い物チャレンジ ①動画や表を見て役割内容を確認する。 ②店員と客役を決める。 ③役割を交代する。 〈店員A役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②店員Bから受け取った商品と同じ画像を押す(タブレット端末)。 ③預かったお金を打ち込む(タブレット端末)。 ④おつりを用意する。 ⑤レシートとおつりを渡す。 ⑥「ありがとうございました」を言う。 〈店員B役〉 ①「いらっしゃいませ」を言う。 ②商品にバーコードリーダーを当て，一つずつ店員Aに渡す。 ③商品をエコバッグに入れて客に渡す。 ④「ありがとうございました」を言う。 〈お客役（２名)〉 ①店に入り，レジかごを持つ。 ②商品を選んでかごに入れて，レジに出す。 ③お金を支払う。 ④商品とレシート，おつりを受け取る。 ⑤店を出る。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。 〈店員A役〉 ○ペアで協力するよう声掛けをする。 ☆自ら「お願いします。」「ありがとうございました。」などの言葉を添えてやり取りすることができたか。 ・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○不安な様子が見られたときは，実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングするよう促す（T２）。 ☆ちょうどの額を一人で支払うことができたか。	○買い物の手順を口頭で質問しながら確認する。 ・店員の準備をする。 〈店員B役〉 ○適宜，手順表を見るよう促したり，活動をやり直しさせたりする。 ☆手順表で次の行動を確認しながら，丁寧にやり取りすることができたか。 ・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○実物の硬貨と写真の硬貨を１枚ずつ写真と確認しながらマッチングするよう声を掛ける（T２）。 ☆実物の硬貨と写真の硬貨をマッチングさせながら正しく用意することができたか。	○動画に注目するように促す（T２）。 ・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○商品を選んだ後に，手順表で次の行動を確認させる（T２）。 ☆手順表で次の行動を確認しながら，自分からレジに行くことができたか。 ・店員の準備をする。 〈店員A役〉 ○緊張や不安を感じて活動が停滞した際には，適宜，説明し直したり，落ち着くよう声を掛けたりする。 ☆品物やお金の受け渡しの場面で，相手に視線を向けながら行うことができたか。	○動画に注目するように促す（T２）。 ・何を買うか確認する。 〈お客役〉 ○選べないでいるときは，タブレット端末で選ぶ品物を手元で見せる。（T２） ☆品物コーナーで，品物をよく見て，自分から手を伸ばす様子が見られたか。 ・店員の準備をする。 〈店員B役〉 ○教師がそばにいるようにし，適宜，教師のまねをするよう促す。 ☆品物の受け渡しの場面で，教師のまねをして，相手に対して発声したり頭を下げる仕草を見せたりすることができたか。	タブレット端末 プロジェクター 顔写真カード 品物 レジかご 硬貨 レシート バーコードリーダー 店員エプロン 手順表 エコバッグ

終結 10分	4　本時の振り返り ①写真で学習を振り返る。 ②感想を発表する。 ③一人一人の頑張った点や良かった点を共有する。	○友達の頑張りにも気付けるよう働き掛ける。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○買い物ができたことを称賛し，共に喜び合えるよう言葉を添える。	○友達の頑張りにも気付けるよう働き掛ける。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○インタビュー形式で，発表を促す。 ○買い物ができたことを称賛し，共に喜び合えるよう言葉を添える。	○写真に注目するように促す（Ｔ２）。 ・自分の頑張ったことを発表する。 ○安心して発表できるよう，教師が近くで対応する（Ｔ２）。 ○買い物ができたことを称賛し，共に喜び合えるよう言葉を添える。	○写真に注目するように促す（Ｔ２）。 ・気持ちカードで頑張ったことを発表する。 ○気持ちカードを活用し，二択で気持ちを確認する（Ｔ２）。 ○買い物ができたことを称賛し，共に喜び合えるよう言葉を添える。	気持ちカード
	5　次時の予定の確認	・次時は，実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ，次回への期待を高められるようにする。	・次時は，実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ，次回への期待を高められるようにする。	・次時は，実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ，次回への期待を高められるようにする（Ｔ２）。	・次時は，実際にスーパーマーケットに買い物に行くことを確認する。 ○学習カレンダーに着目させ，次回への期待を高められるようにする（Ｔ２）。	学習カレンダー
	6　終わりのあいさつ	○日直はみんなを注目させるよう促す。 ・日直が挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	・日直の合図に合わせて挨拶をする。	○日直に注目するように促す（Ｔ２）。 ・日直の合図に合わせて挨拶をする。	



学習指導案づくりの２０の視点

⑮教師の動きやＴ・Ｔ間の役割が明確である。

⑯授業全体の流れが分かり，中心的な学習活動が明確である。

⑰「育成を目指す資質・能力」が身に付くために，「主体的・対話的で深い学び」の視点で指導や支援を考えている。

学習指導案様式例（教科別の指導）【解説ナビ】

〇〇学級（学級名）　〇〇科　学習指導案

・特別支援学校の場合，「〇学部〇年〇組〇〇〇」と記入します。

日　時　令和〇年〇月〇日0：00～0：00
場　所　〇〇学級教室
指導者　〇〇　〇〇

１　単元（題材）名「〇〇〇〇〇〇」

・児童生徒が活動をイメージしやすく，意欲が高まる表現で記入します。

２　単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）の実態［〇年〇組・〇名］

・単元（題材）に関わる児童生徒の実態や興味・関心等について記入します。
・「〇〇な実態だから、△△を課題に考えている」というように，学習集団の実態と課題を整理して記入します。
・個の実態には，教科の実態や現在の課題等を記入します。

このような実態で，このような良い点や課題がある児童生徒たちなので，

(2) 単元（題材）観

本単元（題材）は，学習指導要領「〇〇〇〇〇」の，以下の目標・内容を受けて設定している。

〇〇〇〇〇　〇段階　目標
※ここに目標を記入する。

〇〇〇〇〇　〇段階　内容
※ここに内容を記入する。

・単元（題材）に関する，学習指導要領の目標及び内容を転記します。

このような意義のある単元（題材）を設定し，

本単元（題材）では，・・・・・・

・単元（題材）の特徴を記入します。
・単元（題材）に対する考え方や，なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
・国語科については，小学校・中学校に準ずる教育課程で行う場合のみ，「取り上げる言語活動」を記入します。

(3) 指導観

・児童生徒の実態，単元（題材）観を基に，目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
・教材・教具の工夫，教師の協力体制（T・T），学習環境について記入します。

目標を達成するために，このような指導・支援を工夫していきます。

３　単元（題材）の目標

(1) ……できる。〔知識及び技能〕
(2) ……できる。〔思考力，判断力，表現力等〕
(3) …しようとする。「学びに向かう力，人間性等」

・学習指導要領で示された目標及び内容を参考に設定します。
・「育成を目指す資質・能力」を明確にして記入します。

４　単元（題材）の指導と評価の計画

(1) 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……している。	……している。	……しようとしている。

・「３　単元（題材）の目標」に対して，児童生徒のどのような姿が見られれば，「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。

(2) 単元（題材）の指導計画（○時間扱い　本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	評価規準			評価方法
				知・技	思・判・表	主	
1				・			行動観察
2				○	・		行動観察
3				○	○	・	ワークシート
4				・	○	○	行動観察 発表

・目標達成のために，単元（題材）全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。
・評価規準には，次時に向けて「指導に生かす評価」と，単元（題材）の学習の評価として活用する「記録に残す評価」があり，分けて記入します。
・単元（題材）の中に評価の観点を位置付けることで，指導の重点を意識することができます。
・評価の計画の考え方は，教科によって異なります。（本例は算数科）

※　○：記録に残す評価　・：指導に生かす評価

５　単元（題材）の個別の目標

	知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
A児			
B児			
C児			

・単元（題材）の個別の目標は，「３　単元（題材）の目標」を基に，「個別の指導計画」との関連を意識しながら設定します。
・単元（題材）を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した「単元（題材）の個別の目標」を設定します。

６　本時の計画

(1) 本時の目標

・……できる。〔知識及び技能〕
・……できる。〔思考力，判断力，表現力等〕
・……しようとする。「学びに向かう力，人間性等」

・「４　単元（題材）の指導と評価の計画」と整合性を図りながら，本時で育成を目指す資質・能力を考え，目標を設定します。
・「３　単元（題材）の目標」を基に，集団全体の目標を具体的に記入します。

(2) 本時の指導に当たって

・本時の目標達成のために，本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫や支援をするのかを具体的に記入します。
・教材・教具の工夫，学習環境等について記入します。

(3) 児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価規準

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A児 B児 C児	・実態を書く際には，できるだけ否定的な表現は避け，どういう支援があればできるのかを記入します。	・本時の個別の目標は，「(2) 本時の目標」を基に育成を目指す資質・能力を記入します。その際，「個別の指導計画」を基に自立活動の指導との関連を意識しながら設定します。	・手立ては，個々の実態を踏まえ，具体的に記入します。	・評価規準は，個別の目標に対して，児童生徒のどのような姿が見られれば，「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。

(4) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問　　・指示 ◆予想される児童（生徒）の反応	指導上の留意点	評価
導入○分			
展開○分			
終結○分			

・「学習活動」は，学級で行う大まかな活動を記入します。
・「指導上の留意点」は，児童生徒の具体的な活動や教師が行う指導・支援を記入します。
・授業の流れ，児童生徒や教師の動きが分かるように記入します。
・どの学習場面において，どのような方法で児童生徒の学習状況を評価するのかを明確に示します。

(5) 本時の評価規準

・……している。（知識・技能）
・……している。（思考・判断・表現）
・……しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

・「(1) 本時の目標」で育成を目指す資質・能力に沿って，本時の学習活動を踏まえ，具体的に記入します。

(6) 準備物

・教師：
・児童（生徒）：

・教師，児童生徒が準備するものを具体的に記入します。

(7) その他

・本時の学習活動に必要な，「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
・児童生徒や教師の位置，教材・教具の位置，環境整備の工夫等が分かるように記入します。

学習指導案様式例（各教科等を合わせた指導）【解説ナビ】

○○学校　○学部　○年○組　○○○　学習指導案

・特別支援学級の場合，「○学級（学級名）○○科」と記入します。

日　時　令和○年○月○日0：00～0：00
場　所　○学部○年○組　教室
指導者　○○　○○（Ｔ１）
　　○○　○○（Ｔ２）

１　単元（題材）名「○○○○○○」

・児童生徒が活動をイメージしやすく，意欲が高まる表現で記入します。

２　単元（題材）設定の理由

(1) 児童（生徒）の実態［○年○組・○名］

・単元（題材）に関わる児童生徒の実態や興味・関心等について記入します。
・「○○な実態だから、△△を課題に考えている」というように，学習集団の実態と課題を整理して記入します。
・扱う各教科等の実態や現在の課題だけでなく，良い点等も記入します。

このような実態で，このような良い点や課題がある児童生徒たちなので，

(2) 単元（題材）観

本単元（題材）は，○○を学習するに当たり，特別支援学校○学部学習指導要領○○科，○○科…の，以下の内容を受けて設定している。

○学部　○○科　○段階　内容
※ここに内容を記入する。
○学部　○○科　○段階　内容

・単元（題材）で扱う，各教科の学習指導要領の内容を転記します。

本単元(題材)では，・・・・・・

・単元（題材）の特徴を記入します。
・単元（題材）に対する考え方や，なぜその教材を扱うのかという意義や価値を記入します。
・「各教科等を合わせた指導」の場合は，設定した単元（題材）で扱う教科等についても記入することで，教科の学習を意識することができます。

このような意義のある単元（題材）を設定し，

(3) 指導観

・児童生徒の実態，単元（題材）観を基に，目標達成のためにどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
・教材・教具の工夫，教師の協力体制（T・T），学習環境について記入します。

目標を達成するために，このような指導・支援を工夫していきます。

３　単元（題材）の目標

(1) ……できる。〔知識及び技能〕
(2) ……できる。〔思考力，判断力，表現力等〕
(3) ……しようとする。「学びに向かう力，人間性等」

・年間指導計画に示された目標及び内容を参考に設定します。
・「育成を目指す資質・能力」を具体化して記入します。

４　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
……している。	……している。	……しようとしている。

・「３　単元（題材）の目標」に対して，児童生徒のどのような姿が見られれば，「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。

※扱う教科の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（教科名）……している。 （教科名）……している。	（教科名）……している。 （教科名）……している。	（教科名）……しようとしている。 （教科名）……しようとしている。

・「※扱う教科の評価規準」を考えておくことで，扱う教科の個別の評価を行う際の参考となります。

５　単元（題材）の指導計画（○時間扱い　本時○／○）

次	小単元（題材）名	時数	学習活動	扱う教科の内容
1				
2				
3				
4				

・目標達成のために，単元（題材）全体の主な学習活動や指導の流れが明確になるよう簡潔に記入します。
・扱う教科の内容を意識することで，その時間で児童生徒にどんな力を身に付けさせたいかを考えることができます。
・扱う教科の内容の欄は，「生活　キ手伝い・仕事」などと記入します。内容のまとまりを記入し，段階は記入しません。

６　単元（題材）の個別の目標

	単元（題材）の個別の目標	扱う教科の実態
A児		
B児		
C児		

・単元（題材）で扱う内容に関する児童生徒の実態と個別の目標を記入します。
・「３　**単元（題材）の目標**」を基に，単元（題材）を通して「身に付けさせたい資質・能力」を具体化した「単元（題材）の個別の目標」を設定します。
・扱う教科の実態には，段階まで記入します。
・扱う教科の実態を踏まえ，「単元（題材）の個別の目標」を記入します。

７　本時の計画

(1)　小単元（題材）名「○○○○」

・児童生徒が活動をイメージしやすく，意欲が高まる表現で記入します。

(2)　本時の目標

・……できる。〔知識及び技能〕
・……できる。〔思考力，判断力，表現力等〕
・……しようとする。「学びに向かう力，人間性等」

・本時で育成を目指す資質・能力を考え，目標を設定します。
・「３　**単元（題材）の目標**」を基に，各教科等を合わせた指導の目標を具体的に記入します。

(3)　本時の指導に当たって

・本時の目標達成のために，本時の指導でどのような学習活動や指導の工夫をするのかを具体的に記入します。
・教材・教具の工夫，教師の支援体制（T・T等），学習環境の工夫等について記入します。

(4)　児童（生徒）の実態と個別の目標及び評価規準

	児童（生徒）の実態	本時の個別の目標	手立て	評価規準
A児	・実態を書く際には，できるだけ否定的な表現は避け，どういう支援があればできるのかを記入します。	・本時の個別の目標は，「(2)　本時の目標」を基に育成を目指す資質・能力を記入します。その際，「個別の指導計画」を基に自立活動の指導との関連を意識しながら設定します。	・手立ては，個々の実態を踏まえ，具体的に記入します。	・評価規準は，個別の目標に対して，児童生徒のどのような姿が見られれば，「おおむね満足できる」と考えるのかを具体的に記入します。
B児				
C児				

(5) 指導過程

段階	学習活動	指導上の留意点 （・→児童生徒の活動　○→教師の働き掛け　☆→評価） A児	B児	C児	準備物
導入○分	・「学習活動」は，学級で行う大まかな活動を記入します。 ・「指導上の留意点」は，児童生徒の具体的な活動や教師が行う指導・支援を記入します。 ・授業の流れ，児童生徒や教師の動きが分かるように記入します。 ・T・Tの場合は，各教師の役割や児童生徒への関わり方を分かるように記入します。 ・どの学習場面において，どのような方法で児童生徒の学習状況を評価するのかを明確に示します。				
展開○分 終結○分	・指導過程の書き方は様々あるので，目的に応じて使い分けます。 （本例は，個別の支援が分かりやすい指導過程）				

○グループごとの支援が分かりやすい指導過程の例

学習活動	Aグループ（A児, B児）	Bグループ（C児, D児）

○教材・教具等の指導の工夫が分かりやすい指導過程の例

学習活動	作業内容と指導上の留意点 ○○作業チーム A児, B児	△△作業チーム C児, D児	教材・教具等

○教師の動きが分かりやすい指導過程の例

学習活動	T１	T２	T３	T４

(6) 本時の評価規準

・……している。（知識・技能）
・……している。（思考・判断・表現）
・……しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

・「(2) 本時の目標」で育成を目指す資質・能力に沿って，本時の学習活動を踏まえ，具体的に記入します。

(7) 準備物

・教師：
・児童（生徒）：

・教師，児童生徒が準備するものを具体的に記入します。

(8) その他

・本時の学習活動に必要な，「場の設定」や「板書計画」等を必要に応じて記入します。
・児童生徒や教師の位置，教材・教具の位置，環境整備の工夫等が分かるように記入します。

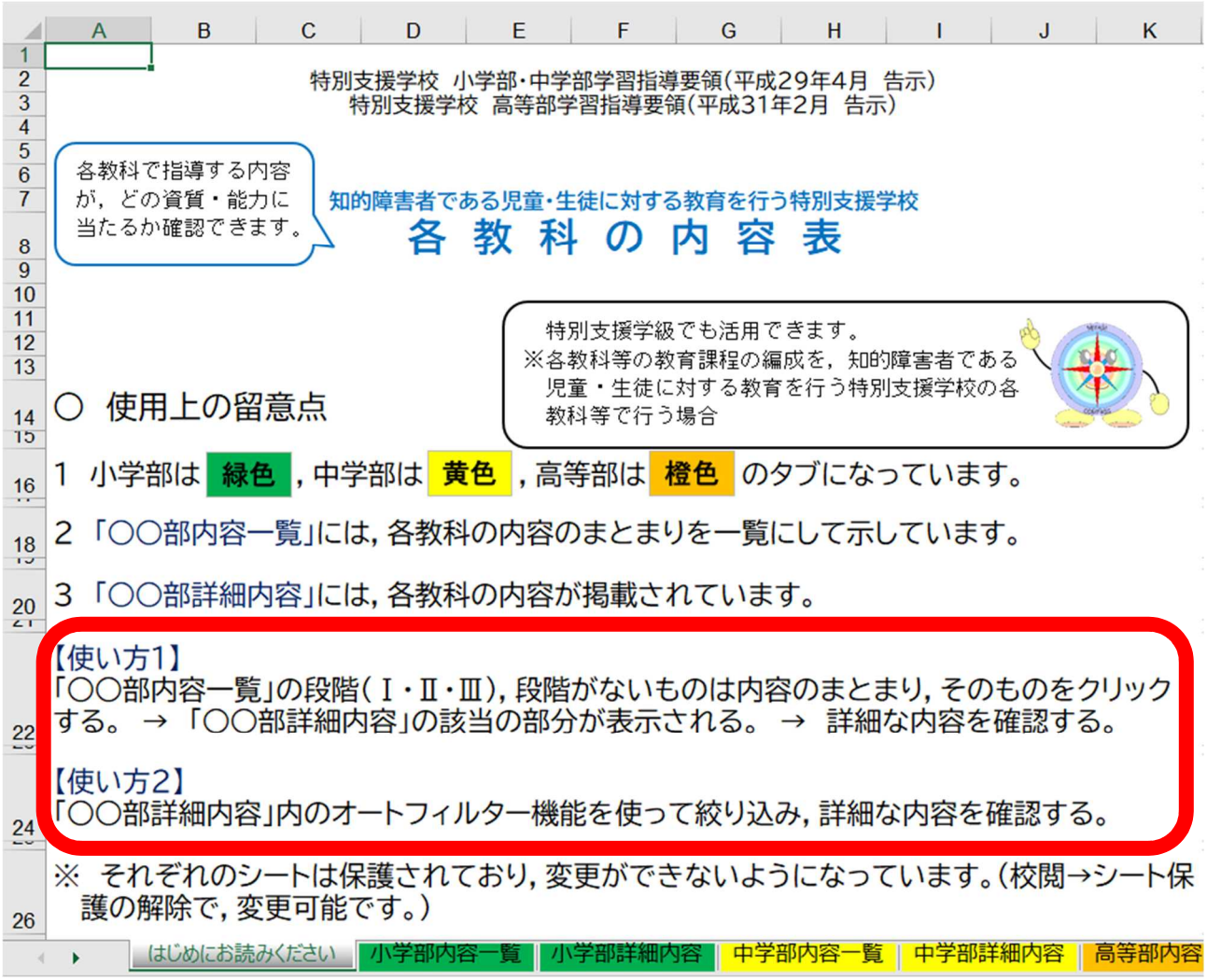
２　年間指導計画を見直そう

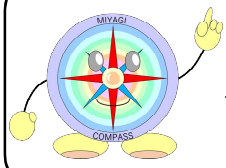
(１) 各教科の内容表

各教科の目標及び内容を調べることができるのが「各教科の内容表」です。「教科別の指導」や「各教科等を合わせた指導」において，単元で身に付けてほしい資質・能力を確認したいときや年間指導計画を作成するときに活用できます。

○使い方

使い方は2種類あります。ファイルを開き，「はじめにお読みください」のタブをクリックします。以下の画面が表示されます。下の囲み部分が使い方の説明になります。





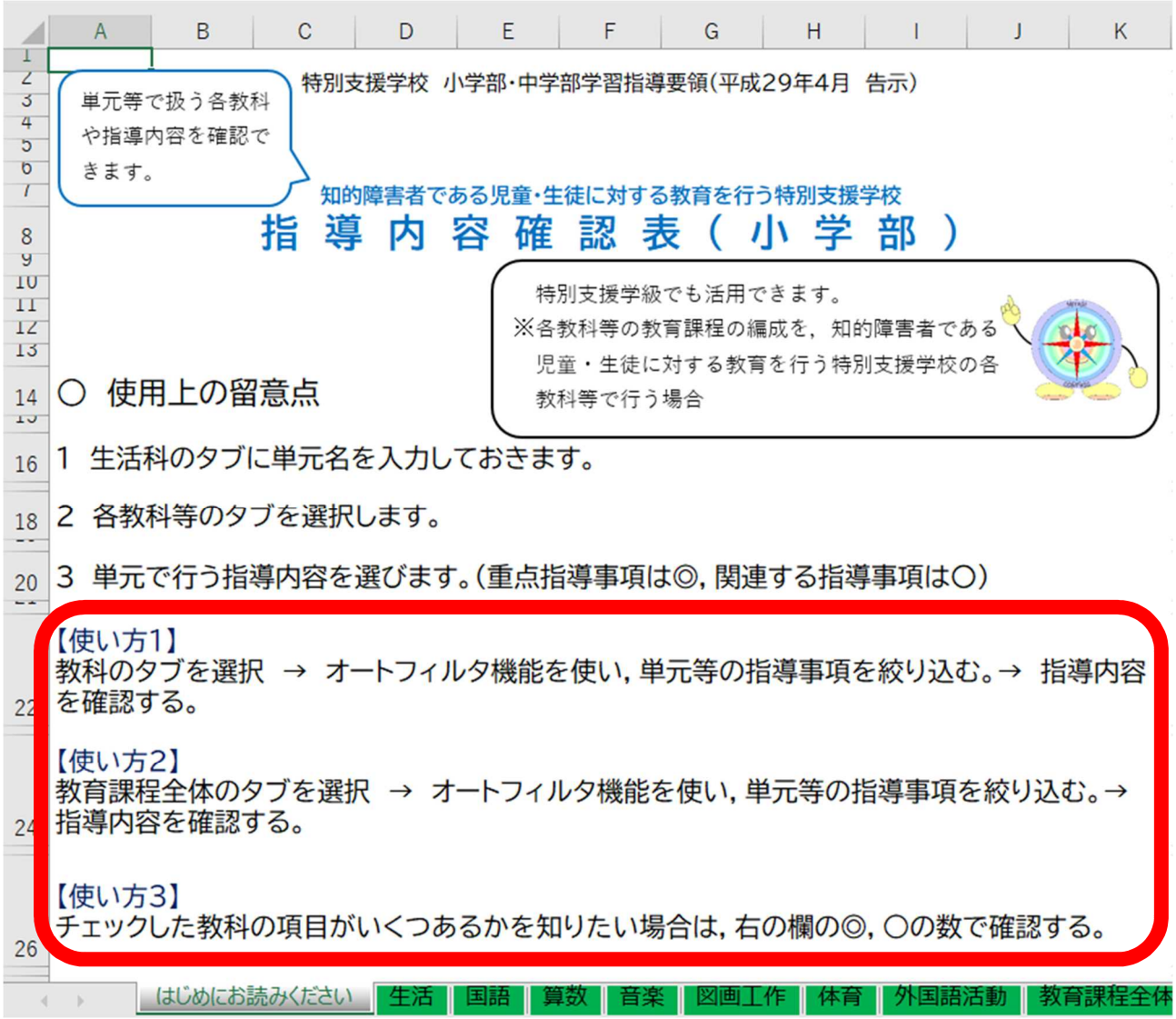
各教科の内容表のファイルは，
http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/
にあります。ダウンロードしてご活用ください。

(2) 指導内容確認表

「指導内容確認表」は，指導する学習活動と扱う教科等を確認したり，各教科の内容が満遍なく行われているかを確認したりする際に活用できます。

○使い方

使い方は3種類あります。ファイルを開き，「はじめにお読みください」のタブをクリックします。以下の画面が表示されます。下の囲み部分が使い方の説明になります。

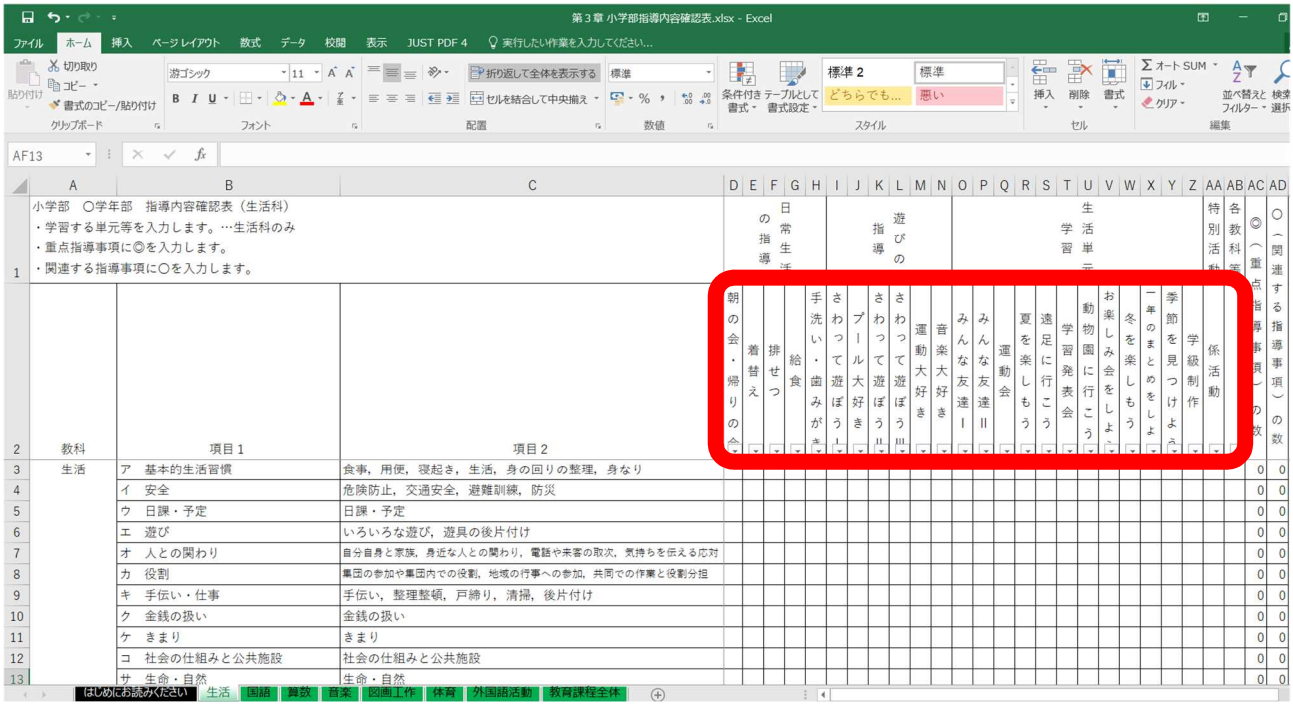


指導内容確認表のファイルは，
http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/
にあります。ダウンロードしてご活用ください。

シートの１枚目にも使い方がありますが，「各教科の内容表」と異なり，事前準備が必要です。以下で詳しく説明します。

〇手順

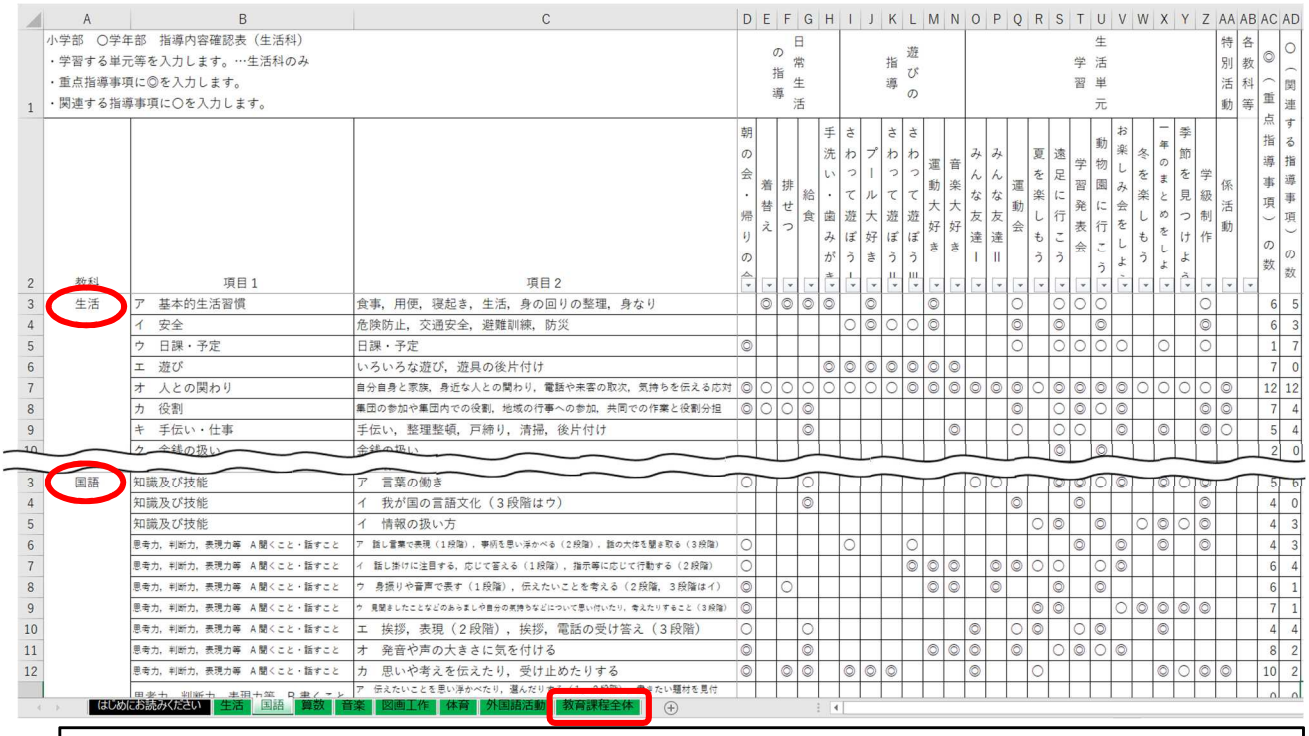
1　学習する単元等を入力します。小学部は生活，中学部は国語のタブに入力します。



2　教科の指導内容をどの単元で扱うかチェックします。

◎…重点指導事項，〇…関連する指導事項

全教科の入力が終わると，
教科の関連等が確認できます。

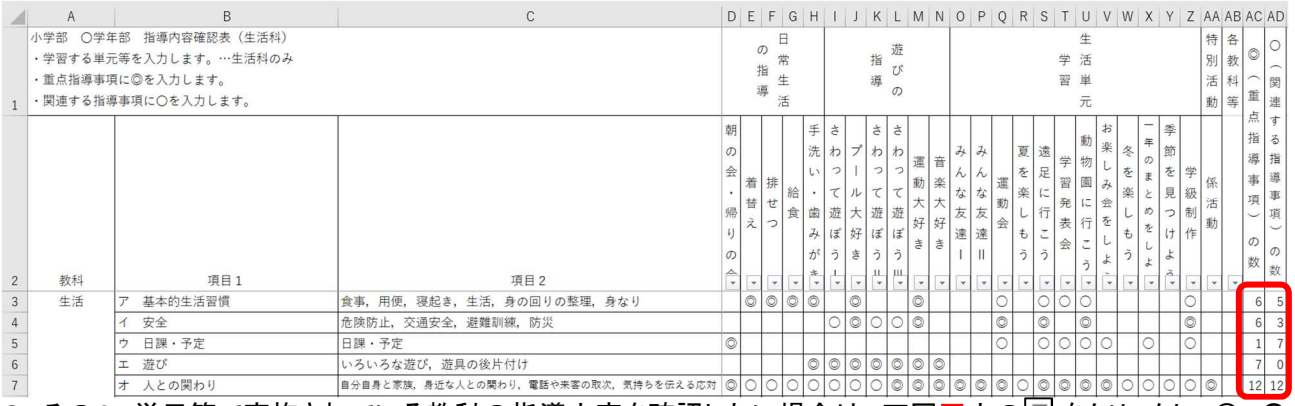


	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD
1	小学部　○学年部　指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 ・関連する指導事項に○を入力します。			日常生活の指導					遊びの指導						生活単元学習												特別活動	各教科等	◎（重点指導事項）の数	○（関連する指導事項）の数
2	教科	項目1	項目2	朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき	さわって遊ぼうI	プール大好き	さわって遊ぼうII	さわって遊ぼうIII	運動大好き	音楽大好き	みんな友達I	みんな友達II	運動会	夏を楽しもう	遠足に行こう	学習発表会	動物園に行こう	お楽しみ会をしよう	冬を楽しもう	一年のまとめをしよう	季節を見つけよう	学級制作	係活動			
3	生活	ア　基本的生活習慣	食事，用便，寝起き，生活，身の回りの整理，身なり		◎	◎	◎	◎		◎			◎				○		○	○	○					○			6	5
4		イ　安全	危険防止，交通安全，避難訓練，防災						○	◎	○	○	◎				◎		◎		◎					◎			6	3
5		ウ　日課・予定	日課・予定	◎													○		○	○	○	○		○		○			1	7
6		エ　遊び	いろいろな遊び，遊具の後片付け					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎															7	0
7		オ　人との関わり	自分自身と家族，身近な人との関わり，電話や来客の取次，気持ちを伝える応対	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎		12	12
8		カ　役割	集団の参加や集団内での役割，地域の行事への参加，共同での作業と役割分担	◎	○	○	◎										◎		○	◎	○	◎				◎	◎		7	4
9		キ　手伝い・仕事	手伝い，整理整頓，戸締り，清掃，後片付け				◎							◎			○		○	○		◎		◎		◎	○		5	4
10		ク　金銭の扱い	金銭の扱い																◎		◎								2	0
3	国語	知識及び技能	ア　言葉の働き	○			○								○	○			◎	◎	○	◎		◎	○	◎			5	6
4		知識及び技能	イ　我が国の言語文化（３段階はウ）				◎										◎			◎						◎			4	0
5		知識及び技能	イ　情報の扱い方															○	◎		◎		○	◎	○	◎			4	3
6		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	ア　話し言葉で表現（１段階），事柄を思い浮かべる（２段階），話の大体を聞き取る（３段階）	○					○			○								◎		◎		◎		◎			4	3
7		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	イ　話し掛けに注目する，応じて答える（１段階），指示等に応じて行動する（２段階）	○								◎	◎	◎		◎	◎	○	○		○	◎							6	4
8		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	ウ　身振りや音声で表す（１段階），伝えたいことを考える（２段階，３段階はイ）	◎		○							◎	◎		◎			◎		◎								6	1
9		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	ウ　見聞きしたことなどのおぼろましや自分の気持ちなどについて思い付いたり，考えたりすること（３段階）	◎														◎	◎			○	◎	◎	◎	◎			7	1
10		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	エ　挨拶，表現（２段階），挨拶，電話の受け答え（３段階）	○			○								◎		○	◎		○	◎			◎					4	4
11		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	オ　発音や声の大きさに気を付ける	◎			◎						◎	◎	◎		◎		○	◎	○	◎							8	2
12		思考力，判断力，表現力等　A聞くこと・話すこと	カ　思いや考えを伝えたり，受け止めたりする	◎		◎	◎		◎	◎	◎				◎			○						◎	○	◎	◎		10	2
		思考力，判断力，表現力等　B書くこと	ア　伝えたいことを思い浮かべたり，選んだり																										0	0

はじめにお読みください　生活　国語　算数　音楽　図画工作　体育　外国語活動　教育課程全体

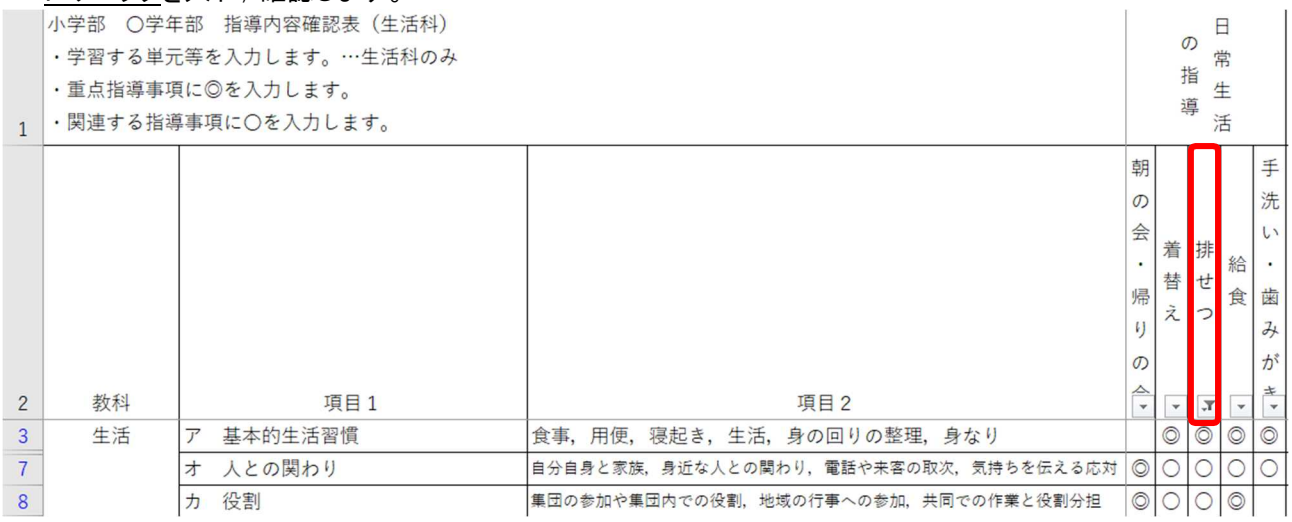
教科の入力が終わると，「教育課程全体」のタブに全教科の入力が反映されます。
・教科の内容項目がバランスよく行われているか点検できます。

３　その１　チェックした教科の指導内容がいくつあるかを知りたい場合は，右の欄にある◎，○の数を確認します。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD
1	小学部　○学年部　指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 ・関連する指導事項に○を入力します。			日常生活の指導					遊びの指導						生活単元学習												特別活動	各教科等	◎（重点指導事項）の数	○（関連する指導事項）の数
2	教科	項目1	項目2	朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき	さわって遊ぼうI	プール大好き	さわって遊ぼうII	さわって遊ぼうIII	運動大好き	音楽大好き	みんな友達I	みんな友達II	運動会	夏を楽しもう	遠足に行こう	学習発表会	動物園に行こう	お楽しみ会をしよう	冬を楽しもう	一年のまとめをしよう	季節を見つけよう	学級制作	係活動			
3	生活	ア　基本的生活習慣	食事，用便，寝起き，生活，身の回りの整理，身なり		◎	◎	◎	◎		◎			◎				○		○	○	○					○			6	5
4		イ　安全	危険防止，交通安全，避難訓練，防災						○	◎	○	○	◎				◎		◎		◎					◎			6	3
5		ウ　日課・予定	日課・予定	◎													○		○	○	○	○		○		○			1	7
6		エ　遊び	いろいろな遊び，遊具の後片付け					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎															7	0
7		オ　人との関わり	自分自身と家族，身近な人との関わり，電話や来客の取次，気持ちを伝える応対	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎		12	12

３　その２　単元等で実施されている教科の指導内容を確認したい場合は，下図□内の▼をクリックし，◎，○にチェックを入れ，確認します。



	A	B	C	D	E	F	G	H
1	小学部　○学年部　指導内容確認表（生活科） ・学習する単元等を入力します。…生活科のみ ・重点指導事項に◎を入力します。 ・関連する指導事項に○を入力します。			日常生活の指導				
2	教科	項目1	項目2	朝の会・帰りの会	着替え	排せつ	給食	手洗い・歯みがき
3	生活	ア　基本的生活習慣	食事，用便，寝起き，生活，身の回りの整理，身なり		◎	◎	◎	◎
7		オ　人との関わり	自分自身と家族，身近な人との関わり，電話や来客の取次，気持ちを伝える応対	◎	○	○	○	○
8		カ　役割	集団の参加や集団内での役割，地域の行事への参加，共同での作業と役割分担	◎	○	○	◎	

(3) 年間指導計画の一例

〇〇支援学校　小学部中学年　生活単元学習　年間指導計画

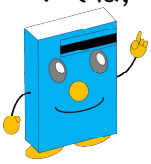
単元名 時期　時数	目標 知→〔知識及び技能〕，思→〔思考力・判断力・表現力等〕， 学→「学びに向かう力・人間性等」	主な学習活動	扱う教科の内容
みんな友達 ４～５月 10時間	知中学年部の教師や友達を知る。 知用具の使い方を覚え，制作活動に取り組むことができる。 思教師や友達との関わりの中で，自分の思いを持ったり，伝えたりすることができる。 学新しい教師や友達との関わりを通して，自分のよさに気付き，一緒に活動を楽しもうとする。	・自己紹介，学級紹介 ・顔合わせの会 ・ゲーム ・みんなで一つの制作活動 ・歌遊び，ダンス	生活　エ遊び オ人との関わり ケきまり 国語　A聞くこと･話すこと B書くこと 図工　A表現　B鑑賞 音楽　A表現
目指せ！お買い物達人！ ５月 10時間	知買い物の手順を理解して，金銭を用いてお店で買い物をすることができる。 思買い物に必要なやり取りを店員とすることができる。 学買い物を通して，人と関わるよさに気付き，手順に沿って，自分なりの方法で買い物をしようとする。	・お金の計算 ・商品名を読む ・模擬買い物学習 ・スーパーマーケットで買い物	生活　キ手伝い・仕事 ク金銭の扱い 国語　A聞くこと･話すこと 言葉の特徴や使い方 算数　A数と計算
ゲームを楽しもう ５～６月 ７時間	知目的に応じた遊び方や活動の仕方が分かる。 思目標を目指したり，友達と競ったりしながら，教師や友達と楽しくゲームに取り組むことができる。 学様々なゲームの楽しさに気付き，ルールやマナーを守って活動しようとする。	・集団行動，戸外歩行 ・戸外の遊具遊び ・かけっこ ・リレーゲーム ・集合ゲーム ・学級旗作成	生活　エ遊び オ人との関わり ケきまり 体育　C走・跳の運動遊び 図工　A表現　B鑑賞
みんなで校外学習に行こう ６月 ８時間	知いつ，どこで，何をするのかが分かって行動することができる。 思遊びたい遊具を選んだり，自分の思いを伝えたりして，施設内の活動を楽しむことができる。 学教師や友達と関わり合いながら，マナーやルールを守って活動に取り組もうとする。 学校外での活動において，友達と関わって活動しようとしたり，自分の興味・関心の幅を広げようとしたりする。	・オリエンテーション（日時，場所，活動内容，約束，荷物等の確認） ・しおり作成 ・買い物学習 ・振り返り	生活　ウ日課・予定 ケきまり コ社会の仕組みと公共施設 国語　B書くこと C読むこと 算数　A数と計算

３　もっと知識を広げよう

ＩＣＦについて

「ＩＣＦ」とは，平成１３年にＷＨＯの総会で採択された「国際生活機能分類（ＩＣＦ：International Classification of Functioning, Disability and Health）」のことです。

ＩＣＦでは，人間の生活機能は「心身機能・身体構造」，「活動」，「参加」の三つの要素で構成されており，それらの生活機能に支障がある状態を「障害」と捉えている。そして，生活機能と障害の状態は，健康状態や環境因子等と相互に影響し合うものと説明され，構成要素間の相互関係については，図１のように示されている。



（特支学習指導要領解説自立活動編　第2章2(1)）

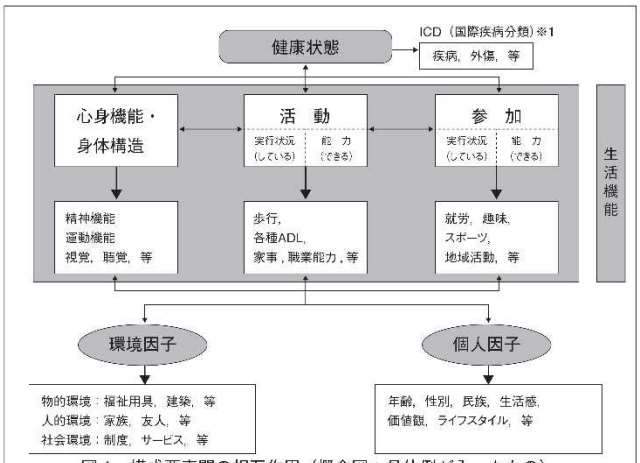


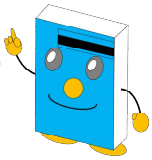
図１　構成要素間の相互作用（概念図：具体例が入ったもの）

（出典）厚生労働省大臣官房統計情報部編「生活機能分類の活用に向けて」
※１　ICD（国際疾病分類）は，疾病や外傷等について国際的に記録や比較を行うために WHO（世界保健機関）が作成したものである。ICD が病気や外傷を詳しく分類するものであるのに対し，ICF はそうした病気等の状態にある人の精神機能や運動機能，歩行や家事等の活動，就労や趣味等への参加の状態を環境因子等のかかわりにおいて把握するものである。

「自立活動の指導をＩＣＦの考え方を念頭に置いて紹介した事例」

下肢にまひがあり，移動が困難な児童が，地域のある場所に外出ができるようにする指導を例に考えてみる。まず，実態把握においては，本人のまひの状態や移動の困難にだけ目を向けるのでなく，移動手段の活用，周囲の環境の把握，コミュニケーションの状況などについて，実際に行っている状況や可能性を詳細に把握する。そして，このような生活機能と障害に加えて，本人の外出に対する意欲，習慣等や地域のバリアフリー環境，周囲の人の意識等を明らかにし，生活機能と障害に個人因子や環境因子がどのように関連しているのか検討する。このように実態を把握した上で，児童の自立を目指す観点から指導目標を設定する。次に，指導目標を達成するために必要な指導内容を多面的な視点から検討するのであるが，その際，学習指導要領等に示された区分や項目を踏まえることが重要である。すなわち，移動を円滑に行う観点からだけでなく，心理的な安定，環境の把握，コミュニケーションなど様々な観点を踏まえて具体的な指導内容を設定し，実際の指導に当たることが求められるのである。ＩＣＦの考え方を踏まえるということは，障害による学習上又は生活上の困難を的確に捉えるとともに，幼児児童生徒が現在行っていることや，指導をすればできること環境を整えればできることなどに一層目を向けるようになることを意味していると言えよう。

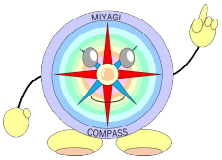
（特支学習指導要領解説自立活動編　第2章2(2)）



ユニバーサルデザインについて

「ユニバーサルデザイン」については，障害者の権利に関する条約第２条定義において「調整又は特別な設計を必要とすることなく，最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品，環境，計画及びサービスの設計をいう。ユニバーサルデザインは，特定の障害者の集団のための補装具が必要な場合には，これを排除するものではない。」と記されています。

「ユニバーサルデザインを意識した授業」とは，特別な教育的支援が必要な児童生徒だけではなく，全ての児童生徒にとって「分かる・できる授業」を行うことです。



○交流学級での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

教師が行う手立て（例）	ねらい
１回に１つの指示にする。	確実に行うため一つ一つ確認できるようにする。
指示の際，写真や動画を提示するなど視覚化を工夫する。 黒板に取り組む学習活動を掲示する。 準備物や手順をカードに書いておき，それを見せながら伝える。	見通しを持たせる。
説明の後，説明した内容のカードを掲示しておく。 意図的に座席を配置する。（モデルとなる児童生徒，困ったときに関わりやすい児童生徒を近くにする等） 教師や友達のすることを手本として，活動を行わせる。 個別に学習に取り組んでいる時間には，こまめに机間指導をして，学習を支援する。	指示の聞き逃しがあった場合に確認できるようにする。 自分で取り組むことができるようにする。
ペアやグループで話し合いをさせる。	理解を促す。

○教室や交流学級以外の場所での「ユニバーサルデザインを意識した授業」

教師が行う手立て（例）	ねらい
体育館や校庭等で整列するときに，並ぶ位置に印を付ける。	自分の場所を明確にする。
その場所での活動予定を書き，見せる。	見通しを持たせる。
教材を写真に撮り，その場所に貼る。	自分で探しやすく，片付けやすくする。

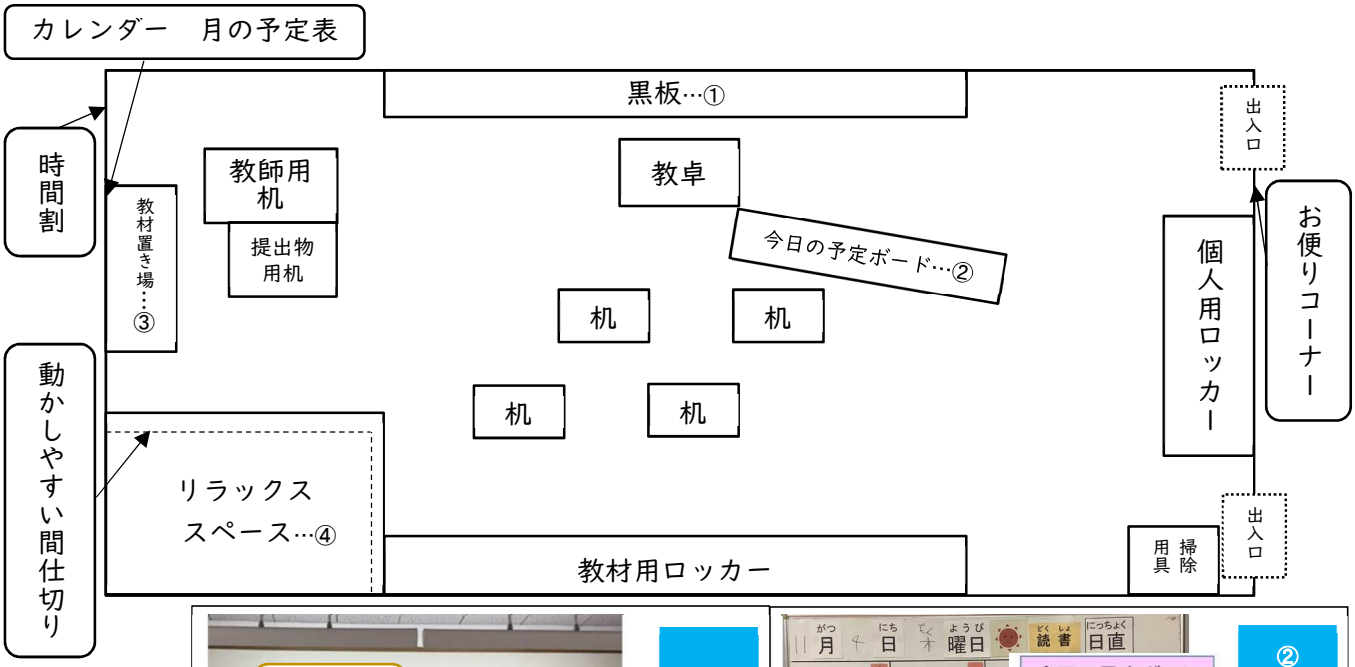
教室環境の整備について

教室環境の整備のポイントは，児童生徒一人一人の障害の状況などに応じ，安全で，落ち着いて過ごすことのできる環境整備を心掛けることです。

○教室環境の整備ポイント

1　過ごしやすく整えられた環境
2　見通しを持って生活しやすい環境
3　自主的，自発的に行動しやすい環境
4　安全，安心，落ち着いて過ごせる環境

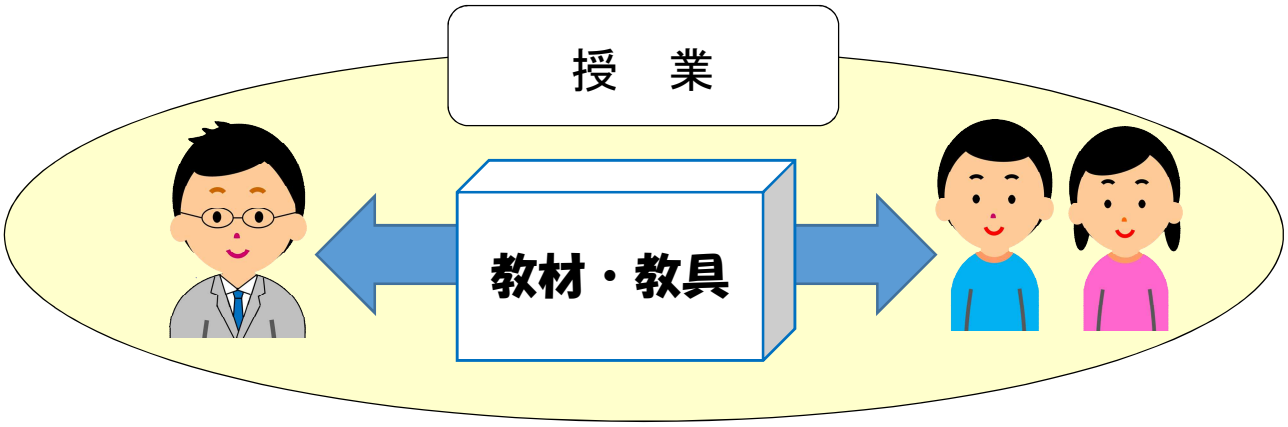
教室内の配置例とチェックポイント



（宮城県総合教育センター「eラーニングシステム　特別支援学級の教室環境」）を基に作成

教材・教具の準備について

〇教師と児童生徒，教材・教具の関係イメージ



特別支援教育の授業を行う際，教材・教具の工夫が欠かせません。教師が教材・教具を介して，児童生徒との学習ややり取りを行うことで，児童生徒の反応や自発的な行動が見られたり，児童生徒の学習意欲や集中力を高めたりすることができます。また，児童生徒の学習のつまずきを解消する側面もあります。

〇教材・教具の種類

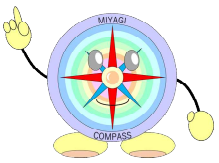
- 特別支援教育に関する市販の教材・教具
- インターネット等を活用し，ダウンロードできる教材・教具
- 個々のニーズに応じた自作の教材・教具　等

※　活動場所，関わる人，活用する用具・道具等も教材・教具と考えられます。

〇教材・教具の準備から改善までの流れ

実態把握	・　児童生徒の姿を思い浮かべ，どんな教材・教具が必要かイメージを持つ。
教材・教具の作成	・　実態把握を基に，教材・教具の工夫や作成を行う。
効果的な活用場面を検討	・　授業の流れをイメージし，児童生徒の反応を予想しながら効果的な活用場面を考える。
情報の共有	・　一緒に授業を行う教員と相談しながら，効果的に活用できるよう情報の共有を行う。
反省と改善	・　児童生徒の反応を振り返り，反省を基に改善をする。

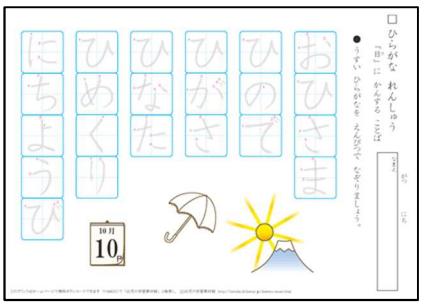
効果的な教材・教具を準備するためには，児童生徒をよく知ること（実態把握）が大切です。



特別支援教育の教材・教具について

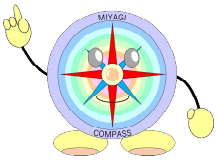
特別支援教育では，個別の目標や指導内容が設定されます。そこで，一人一人の実態に応じた教材・教具の工夫が必要となります。

〇特別支援教育の教材・教具（例）

学習カレンダー	学習カード（なぞり書き）	エアートランポリン
		
単元（題材）を通した学習の予定を確認することで，見通しを持って学習に取り組むことができます。	個別の課題に応じて作成し，ラミネート加工を施すことで，繰り返し使用することができます。	コンプレッサーで空気を送りながら，跳ねるだけでなく，座位や臥位等，好きな姿勢でフワフワした揺れを体感できます。
タイムタイマー・タイマー	**学習教材（色の弁別）**	**今日の予定ボード**
時間を視覚化することで，「始まり」と「終わり」を意識させることができます。	色の弁別や形のマッチング等，児童の実態に応じた課題を学習することができます。	予定や活動の順序等を視覚化することで，見通しを持たせることができ，自発的な行動を促します。

参考：独立行政法人
　　国立特別支援教育総合研究所
「特別支援教育教材ポータルサイト」
http://kyozai.nise.go.jp/

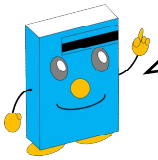
一人一人の実態を踏まえ，個別の教材・教具を準備しましょう。教材・教具を自作するときは，安全面にも留意して作成しましょう。



特別支援教育のＩＣＴ活用について

ことばや文字，数などの学習にＩＣＴを活用して，言語や認知の発達を促したり教科指導の効果を高めたりすることが考えられます。

また，言語や認知，運動機能の障害による学習上又は生活上の困難を補うためにＩＣＴを活用して，機能を代替することが考えられます。



学習指導要領では，特別支援教育におけるＩＣＴの活用について，各教科の指導計画作成に当たっての配慮事項として，**障害種ごとにコンピュータ等のＩＣＴの有効活用に関する規定**を示し，指導方法の工夫を行うことや，指導の効果を高めることを求めています。

ＩＣＴを活用する視点Ⅰ

教科指導の効果を高めたり，情報活用能力の育成を図ったりするため

・　情報活用能力は，各教科等又は教科等横断的な視点に立った資質・能力です。

『視覚情報を見やすくする』〈タブレット端末〉

タブレット端末のカメラ機能を活用することで，板書事項，小さいもの，動いているもの等を写真や動画で撮影し，一時停止したり拡大したりしながら手元でじっくり確認できます。

『拡大提示』〈電子黒板・大型テレビ・スクリーン〉

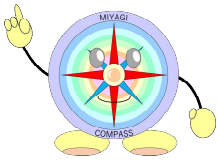
大きな画面に映写することで，児童生徒の視線が大きな画面に集まり，全体で情報を共有できたり，話合い活動が円滑になったりすることが期待できます。

『発表することを分かりやすくまとめる』
〈プレゼンテーションソフト〉

プレゼンテーションソフトを活用することで，時系列で物事を整理したり，伝えたいことを明確にしたりすることができます。

特に大切なことは，児童生徒の実態や指導目標，指導環境に合わせて，ＩＣＴを一つの学習の手段や道具として有効活用することです。そして「何のために，誰のためにＩＣＴを使うのか？」を考えながら活用していくことが必要です。

令和２年度より，小学校のみならず特別支援学校の小学部においてもプログラミング教育に取り組むことになりました。プログラミング教育は，プログラミングのよさに着目し，日々の学習活動の中で各教科等の目標を達成することがねらいとなります。



ＩＣＴを活用する視点２

障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するため

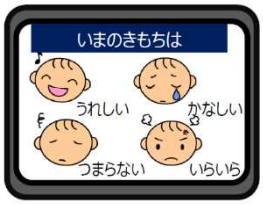
・　特別な支援が必要な児童生徒に対する指導内容・方法の１つで，自立活動の目標にもなります。授業において，**個々の実態に応じて対応**します。

知的障害（理解や意思疎通が困難）

『読み書きを段階的に学ぶ』〈学習ソフト〉

知的障害のある児童生徒に対しては，生活に活用できる言語能力や数的処理能力の育成を促すための学習ソフトの活用が考えられます。双方向性が高く，楽しく機器とやり取りしながら学習が円滑に進められるよう工夫された学習ソフトや入力機器があります。

『写真やシンボル等で自分の意思を伝える』〈コミュニケーション支援アプリ〉

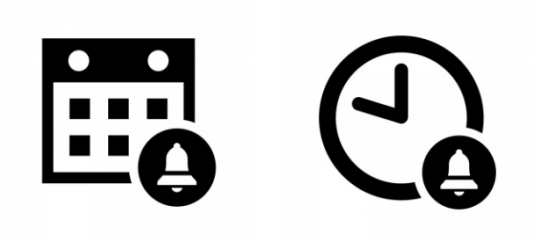


発語による意思表示が困難な児童生徒でも，あらかじめ用意した写真やシンボル等から自分が伝えたいことを選択すると，音声と組み合わせて意思の表出ができます。

発達障害（様々な学びにくさ）→自閉スペクトラム症，注意欠陥多動性障害，学習障害

『覚えることの困難さを補う』

〈タブレット端末のリマインダー機能〉



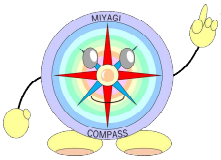
リマインダー機能を活用することで，覚えておくべき内容を表示したり，適切なタイミングで音や振動を鳴らして内容を知らせたりできます。

『予定や活動内容の順番等を視覚化』

〈スケジュール管理アプリ〉

タブレット等で予定や活動内容，作業手順等を提示することで，児童生徒が見通しを持つことができます。写真等を用いたスケジュールの作成が簡単にでき，状況に応じてすぐに活用できます。

（文部科学省「特別支援教育におけるICTの活用」）を基に作成

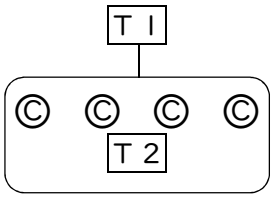
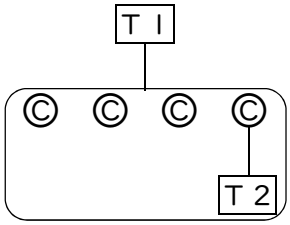
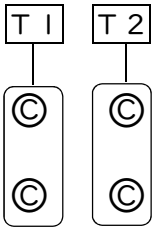
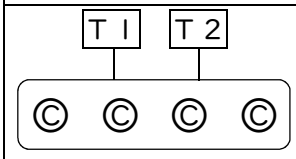
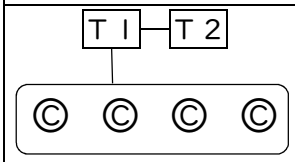


理解や意思表示を支援するために，ＩＣＴ機器の活用は有効です。ＩＣＴ機器の活用は，社会的自立のための「合理的配慮（p. 1-14）」の一つになる可能性があります。

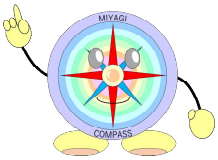
ＩＣＴ機器は便利ですが，使うこと自体が目的にならないように注意しましょう。そのためにも，児童生徒の障害の特性に応じたＩＣＴ機器や補助具の活用をよく検討し，授業のねらいや指導目標が達成できるようにしましょう。

Ｔ・Ｔ（ティーム・ティーチング）について

特別支援学校（知的障害）では，小学校や中学校以上に児童生徒一人一人の実態に応じた指導が必要です。Ｔ・Ｔとは，児童生徒の個に応じたきめ細やかな指導を効果的に行う支援体制です。

Ｔ・Ｔの形式パターンの特徴と教員の役割分担（Ｔ：教員，Ⓒ：児童生徒）	
	**①全体支援型** Ｔ１が全体の授業を進める。 Ｔ２は集団全体を見ながら，支援が必要な児童生徒を中心に支援する。また，必要に応じて学習課題に一緒に取り組んだり，活動の補助をしたりするなど，課題や場面に応じた支援を行うことができる。
	**②個別支援型** Ｔ１が全体の授業を進める。 Ｔ２は特定の児童生徒の支援を担当する。全体の授業のねらいに沿って，担当の児童生徒が同じ学習活動を行うだけでなく，特別な課題を設けることもできる。 ※　特別支援学級の児童生徒が，交流学級で学習を行う際は，このパターンで支援することが多い。
	**③グループ支援型** Ｔ１とＴ２は，各グループを担当し，小集団で学習を進める。 同じ教室で行うと，お互いの内容や進度を確認しながら進めることができる。別教室などで行うと，学習や活動内容に幅を持たせることができる。 例：制作活動で，教員が取り組む課題ごとに指導し，細やかに支援する。 例：実態に応じて設定された小集団で，個別の課題をさせる。
	**④演示型** Ｔ１とＴ２が，交互に指導することで，児童生徒に分かりやすい演示を見せることができる。 例：国語の授業で，Ｔ１とＴ２が児童生徒の前で寸劇を演じて見せる。
	**⑤補助型** Ｔ２がＴ１を補助して指導することで，児童生徒の興味・関心を引き出す演示等を見せることができる。 例：音楽の授業で，Ｔ２がピアノ伴奏を弾く。

Ｔ・Ｔを有効に進めるには，教員一人一人の持ち味を最大限に生かし，授業に対する共通理解を図った上で，各自の役割をしっかりと果たすことが大切です。

学年や学部での合同授業などは，教員や児童生徒の人数，指導内容等の違いでＴ・Ｔの形式パターンが変わります。授業を行う前には必ず「どのＴ・Ｔの形式パターン？」「誰がどの児童生徒を担当？」「どのような働き掛け？」など共通理解を図っておきましょう。

小学校や中学校の特別支援学級では，支援員が配置されていることがあります。支援員の業務内容についてもしっかりと把握し，適切な支援体制ができるようにしましょう。